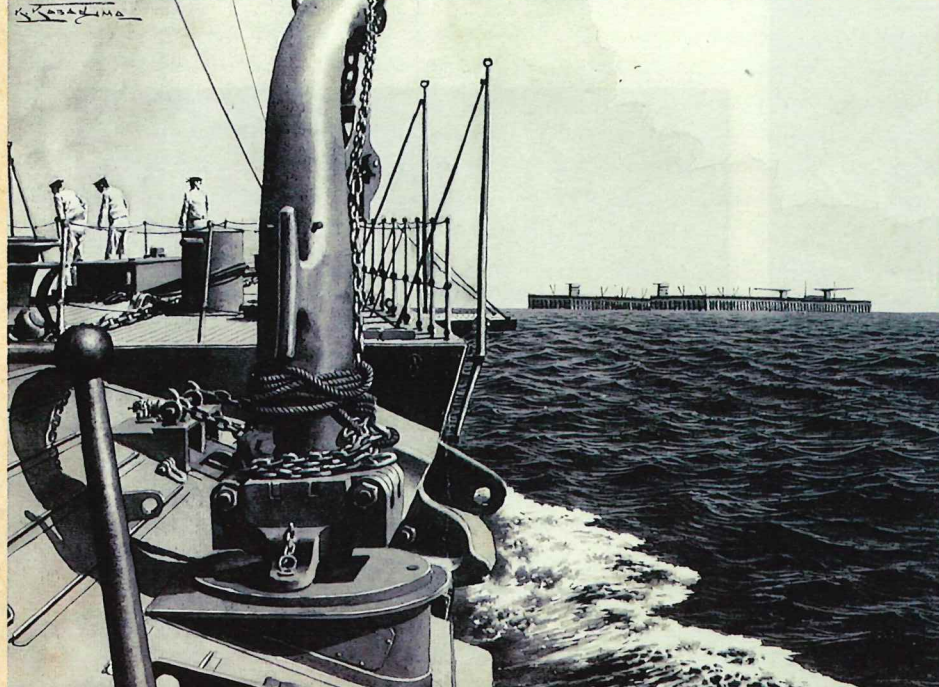


入場
無料



海野十三「浮かぶ飛行島」挿絵原画
(講談社「少年倶楽部」昭和13年1月号)
画: 椛島勝一
昭和13年(1938)
講談社蔵/長崎県美術館寄託

昭和館特別企画展

SF・冒険・ レトロフューチャー × リメイク

～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～

「赤い惑星の少年」表紙原画
(講談社「少年少女世界科学冒険全集」第7巻)
画: 小松崎茂
昭和31年(1956)
講談社蔵



2022年
3/12 (土)
▼
5/8 (日)

会場

昭和館3階 特別企画展会場

開館時間


10時～13時30分(入館は13時まで)

14時～17時30分(入館は17時まで)

休館日

月曜日(3月21日は開館、3月22日は休館)

【特別協力】

株式会社講談社、株式会社タミヤ 

【後援】

千代田区、千代田区教育委員会

 昭和館

URL <https://www.showakan.go.jp>

 <https://twitter.com/showakankudan>  <https://www.facebook.com/showakankudan/>

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575



SF・冒険・レトロフューチャー × リメイク

～挿絵画家 梶島勝一と小松崎茂の世界～

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にともない、令和2年(2019)3月に開催中止となった特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー～ぼくたちの夢とあこがれ～」を再構成した特別企画展を開催します。

本企画展では雑誌『少年倶楽部』を中心に活躍し、「ペン画の神様」と呼ばれた挿絵画家・梶島勝一。その梶島が描く秀麗な挿絵に憧れて挿絵画家を志し、のちに空想科学(SF)挿絵画家として大成した小松崎茂。この2人の挿絵画家に焦点をあて、彼等の画業を通じながら戦中・戦後の少年文化とその移り変わりを紹介します。

展示構成

プロローグ:空想科学(SF)の黎明

- I 梶島勝一と『少年倶楽部』
- II 小松崎茂の活躍と移りゆく少年文化
- III 少年たちの未来予想図



長崎県諫早市生まれ。大正11年(1922)、朝日新聞社に入社。翌年に「正チャンの冒険」を『アサヒグラフ』、『東京朝日新聞』に連載し、主人公がかぶる「正チャン帽」が大流行する。大正14年からは講談社の『少年倶楽部』を中心に、ペン画や軍事冒険小説の挿絵を描き、人気挿絵画家の地位を得た。精密かつ写実的な作風で、「船のカバシマ」と呼ばれるとおり、帆船や艦船を描くことを得意とした。戦後は『少年クラブ』誌上で「ペン画傑作集」を連載、完成度の高い作品を生涯にわたり描きつづけた。



東京南千住生まれ。青年期に日本画家を志したが、梶島勝一にあこがれて挿絵画家へと転向する。昭和13年(1938)に挿絵画家としてデビューし、未来兵器や空想科学を題材にした作品を描き評判を呼んだ。昭和23年、『冒険活劇文庫』創刊を契機とした絵物語ブームの時流に乗り、人気を博す。さらには多種多様な「メカ」が動き回る未来を描くことを得意とし、昭和30年代に興った戦記物ブームでは軍艦や戦闘機の口絵も多く手掛け、ボックスアートの先駆者としてプラモデルの大ヒットに貢献、晩年に至るまで精力的に作品を生み出しつづけた。

イベント情報

① 無声映画上映会

期日 3月27日(日)
場所 1階ニュースシアター
定員 各回30名

演目 『月世界旅行』、『モンブランの嵐』他(予定)

1回目 12時45分～13時30分 2回目 15時～15時45分

② 展示解説 担当者による展示解説を行います。

期日 4月3日(日)、4月24日(日)
時間 14時30分～(所要時間 約45分)
場所 3階特別企画展会場



〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

7・6階には常設展示室(高校生以上有料)があります。

電車で利用の場合

地下鉄九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線 出口4)
 JR飯田橋駅から徒歩約10分

車をご利用の場合

首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点)
 有料駐車場(30分200円・普通乗用車のみ)

